

小学校高学年の部

最優秀賞

「行こうよ！沖縄伝説ツアー」

沖縄市立美里小学校 5年生 坂田 朱裳

私が住んでいるここ沖縄には、たくさんの伝説があることをごぞんじですか？
沖縄本島やり島など、様々な地域で語りつがれています。今日はこの伝説となった場所へみなさんを案内したいと思います。

まず始めに、南城市さしきに町に伝わる「わらしべ長者」伝説があります。このお話は、ある若者が、一本のわらしべから、色々な物と物々こうかんし、しまいには、「尚巴志」という、王様になったそうです。昔、沖縄は、琉球とよばれ三つに分かれて争っていたので一つにまとめた王様がこの「尚巴志」だったそうです。ここ南城市では、王様が見た絶景を見ながら走る「尚巴志ハーフマラソン」が有名です。

次に、宜野湾市真志喜の森の川公園に伝わる羽衣伝説です。この公園には、泉がありそこに天女がよく体を洗いに来ていたそうです。そして、ある青年に羽衣をかくされ、天女は天に帰れなくなって、その青年のおくさんになってしまいました。この二人の間に生まれた子が後の「察度王」という王様になり、中国との正式な国交をかわしたそうです。今ではこの羽衣伝説にちなんで八月の第二土曜日、日曜日には「はごろも祭り」があり、察度王歴史絵巻行列やカチャーシー大会など心も体も元気になれるイベントもりたくさんのお祭りがあります。

次にうるま市に残る「カジマヤー」伝説。天の神が、土の神から土を借りて、6体の人形をつくり、命をふきこんで6人の人間となり三組のふうふになって人間の世が始まりました。こうして人間がたくさんふえていきました。だけど、

この土は百年しか借りることができず、九十七年目に土の神がやって来て、うるうの年が三年分あるから、今日、ちょうど百年なので土を返してくれと言ってきた。たくさん人間が多くなってきたので、天の神と土の神は相談して九十七年生きた人間にはカジマヤー（風車）を持たせて、生まれたばかりの赤ちゃんのまねをさせるようにしたそうです。現在の沖縄では、旧暦の九月七日にカジマヤーのお祝いをします。その時、風車をもたせて、赤い服を着せ、せいだいにお祝いします。

今回は三つの伝説しか紹介できませんでしたが、まだまだたくさんの伝説があります。本島だけでなく、石垣島や宮古島などのり島の伝説も多く、とても、ユーモラスでファンタジーなお話しに心ひかれることでしょう。

私は、このツアーをとおして、日本中、いや世界中の人達に沖縄の伝説を聞かせたいです。沖縄の風や光、希望、喜び悲しみを一緒に感じていただけたら、きっとステキな沖縄を楽しめるかと思います。

一緒にファンタジーな世界をのぞいてみませんか。行こうよ沖縄伝説ツアーへメンソーリョー。